

シャリンバイ・・・



シャリンバイは、バラ科の常緑小高木で、枝の分岐する様子が（葉の配列の様子も）車輪のスポークのようで、しかも梅に似た花をつけることから「車輪梅」と言います。

最近、道路の分離帯や歩道の植え込みに植栽することが多くなりました。大気汚染や強い刈り込みによく耐え、葉が分厚く、乾燥にも強いからでしょう。

この葉の厚みは、葉の表面にロウ質のクチクラ層が発達しているからです。分厚い葉の表面は黒緑色、裏面はうすい緑色で、網目状に走る葉脈の模様がよく目立ちます。特に、葉を日にかざしてみただけで、より一層葉脈が透けて見え、とてもよく分かります。

初夏に円錐花序の花をつけ、花粉を出し終わると花糸が紅色に染まります。10月～12月頃熟した果実はナシ状果といわれ、梨やリンゴと同じ成立ちをしています。色は紫黒色で白い粉をおび美しいのですが、花後に剪定する当団地では見る機会が少ないようです。赤い古葉と緑葉のコントラストもこの植物の魅力です。

本来は、暖地の海岸にはえる樹木ですので、海岸沿いのハイキングコースを散策すると、ウバメガシやマサキ、トベラなど他の海岸性常緑樹とともに目にすることが多いです。

シャリンバイは沖縄や奄美地方ではチカチとかテカチキと呼ばれ、樹皮や材、根に多量のタンニンが含まれるため、そのエキスが染色に使われています。大島紬の帯褐黒色はこれで染めたものです。